



高校生や大学生も絵師として交流

任意団体 山内エコクラブ

記憶の再現による サスティナブルコミュニティの 再生と地域創生

入門助成

1年目

知識の提供・
普及啓発

山内地域の
聞き取り完了

6地区

山内地域の
絵図完成

3地区

活動の全体目標に
対する達成度

80%

課 題

少子高齢化が進む中山間地域で、記憶に残されているかつてのひとと人、人と自然環境の仕組みを紐解き、環境学習と環境保全活動及び持続発展できる地域づくりが必要である。

目 標

地域の環境文化の記憶を見える化したり、共生モデルを読み解くツールとなる聞き書き集やふるさと絵図作成により、地域に記憶文化財という新たな環境文化遺産が生まれる。

活動内容

子どもや学生が70～90歳の古老に60～70年前の地域の様子を聞き取った。それをもとに、古老が参加しやすい地域公民館を開放して、都会からの子どもや地元の高齢者が交流しながら3地域の絵屏風の原画を完成させた。出来上がった原画をもとに絵屏風御披露目コンサートを行い、絵の中に含まれるモノがなく節約しながら生き抜いた時代、人との助け合いの重要性の絵解きを高齢者が行い、持続可能な社会のあり方を再確認した。



お披露目会で絵を描いた
高齢者による絵解き

達成できなかったこと

全6地区の聞き取り完了後に作成を予定していた聞き書き集は、聞き取り時に女性による生活史が予想外に多く、引き続き詳しく聞く必要があったため、発行を次年度に延期した。

今後の展望

ふるさと絵図やESD環境学習プログラムを活用し、国内外から来訪者を受け入れ、地域に交流人口を増やす。

成果と工夫した ポイント



成果

3地区の絵図を完成したことで、新聞社2社、テレビ局の広報もあり、御披露目会には地域内外の人が140人訪れ、「自然を大切にしたい暮らしを見直す機会になった」などの声が20人以上から聞かれた。

工夫

地域の方が参加しやすいようにし、描き手となる若者と高齢者が交流し、絵屏風を通じた環境学習ができた。